

令和 3 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和 3 年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和 3 年 5 月 27 日（木）

3 調査対象

小学校 第 6 学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校 第 3 学年（国語，数学，生徒質問紙）

4 本校の参加状況

① 国語 86 人

② 算数 86 人

5 留意事項

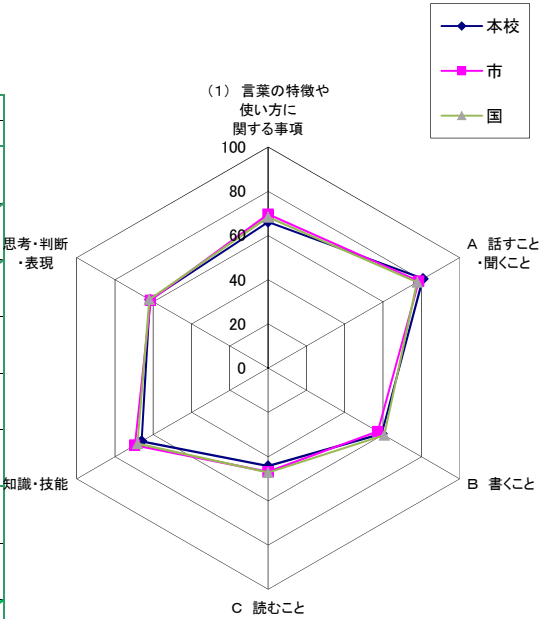
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語，算数の 2 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.1	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	80.8	78.7	77.8
	B 書くこと	59.4	57.3	60.7
	C 読むこと	44.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	66.1	69.6	68.3
	思考・判断・表現	61.8	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

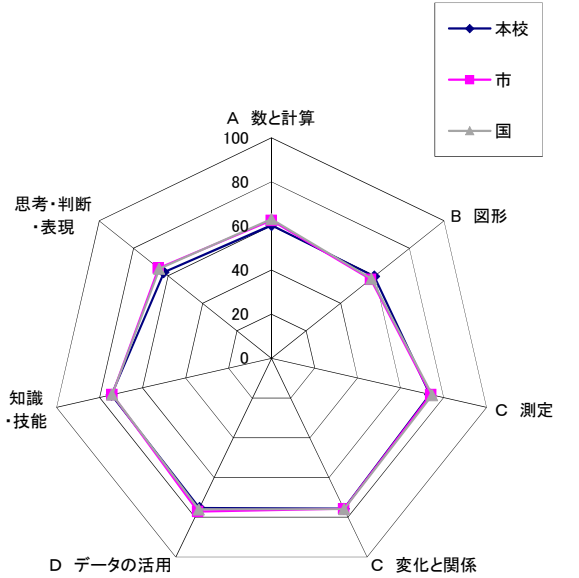
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	●言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は66.1%で、市の平均を3.5ポイント下回っている。 ○文の中における主語と述語との関係を捉える設問では、正答率が77.6%で市の平均より8.7ポイント上回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問は、全体的に市の平均を下回っている。 ●文の中における修飾と被修飾との関係を捉える設問では、正答率が44.7%で市の平均より6ポイント下回っている。	・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。 ・言葉のきまりをドリルやプリントで反復練習したり、日々の授業の中で修飾語、被修飾語の関係を意識させるような声掛けを行ったりする。
A 話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの領域では、平均正答率は80.8%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○資料を用いた目的を理解する設問の正答率が、市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じ、資料を使って話す設問の正答率が市の平均を3.6ポイント上回っている。 ●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える設問の正答率が、市の平均を3.6ポイント下回っている。	・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。 ・言葉のきまりをドリルやプリントで反復練習したり、日々の授業の中で修飾語、被修飾語の関係を意識させるような声掛けを行ったりする。
B 書くこと	○書くことの領域では、平均正答率は59.4%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問の平均正答率が市の平均を1.7ポイント上回っている。	・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。 ・言葉のきまりをドリルやプリントで反復練習したり、日々の授業の中で修飾語、被修飾語の関係を意識させるような声掛けを行ったりする。
C 読むこと	●読むことの平均正答率は44.3%で、市の平均を2.6ポイント下回っている。 ○目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける設問では、正答率が35.3%で市の平均を2.2ポイント上回っている。 ●「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」設問では、正答率が69.4%で、市の平均より9ポイント下回っている。	・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。 ・言葉のきまりをドリルやプリントで反復練習したり、日々の授業の中で修飾語、被修飾語の関係を意識させるような声掛けを行ったりする。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	60.3	62.6	63.1
	B 図形	59.6	57.5	57.9
	C 測定	73.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	75.7	75.8	75.9
	D データの活用	75.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	74.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	62.5	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●領域全体の平均正答率が60.3%で、市の平均を2.3ポイント下回っている。 ○二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する設問では、正答率が63.6%と、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●場面から数量の関係を捉えて、除法の式に表し計算する設問では、正答率が52.5%と、市の平均を2.1ポイント下回っている。	・図や文章から必要な数値を選び、問題を解決する場面を意図的に設け、問題場面を確実に理解し立式する指導を今後も継続していく。 ・除法で表すことができる二つの数量の関係を正確に捉えて式に表すことができるように、文章問題に線を引いたり、数直線に表して考えたりすることを習慣付ける。 ・答えの見通しを持ちながら、問題解決ができるよう支援する。
B 図形	○領域全体の平均正答率は59.6%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○直角三角形の面積を求める問題の正答率は62.4%で市の平均を10.3ポイント上回っている。 ●三角形の面積から平行四辺形の面積を求める問題では、正答率が市の平均を2.6ポイント下回っている。	・面積を求める公式など、基本的な知識は定着しているが、三角形を平行四辺形に置き換えたり、図形を回転させて考えたりするなどの空間図形の認識が十分に定着できていない。今後、ドリル等で問題を多く解いたり、図形を分解したりして考えさせることで確実な定着を図りたい。
C 測定	●領域全体の平均正答率は73.7%で、市の平均を0.4ポイント下回っている。 ○二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選びその求め方と答えを記述する設問の平均正答率は63.6%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●条件に合う時刻を求める設問の平均正答率は84.7%で、市の平均を4.8ポイント下回っている。	・問題を解くために必要な情報を取捨選択する活動を取り入れ、様々な考え方があることを気づき、その中からより良い考え方を自分なりの理由を持って選べるようにする。 ・時刻や時間を意識して、生活を送ったり学習などに取り組んだりするよう促し、定着を図る。 ・問題解決の場面で、意図的に数直線や図を用いて考える活動を取り入れ、課題を正しく理解し見通しを持って解くよう指導する。
C 変化と関係	○領域全体の平均正答率は75.7%で、市の平均とほぼ同等である。 ○分速と距離からかかった時間をもとめる設問の平均正答率は85.9%で、市の平均を1.9ポイント上回っている。 ●速さを求める式の意味と問う設問では、平均正答率は55.3%と、市の平均より1.2ポイント下回っている。	・「速さ」の学習においては、数直線や式、言葉などを用いて説明する活動を多く取り入れ、道のり、時間、速さの関係性を理解させるようにする。
D データの活用	●領域全体の正答率は75.3%で市の平均を1.8ポイント下回っている。 ○図書アンケートの結果を二次元の表に分類整理する問題では、正答率が71.8%で市の平均を1.4ポイント上回っている。 ●集団の特徴を捉えるために、必要なデータを選ぶ問題では、正答率は69.4%で市の平均を4.6ポイント下回っている。	・算数やその他の教科、領域の中で、目的のために必要なデータを集めたり選んだりする活動を意図的に取り入れていく。 ・棒グラフや帯グラフから、データの傾向を読み取ったり、複数のデータを比較して特徴を分析したりする力を育てる。

宇都宮市立上戸祭小学校 第 6 学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「自分には、良いところがあると思いますか」という設問に対する肯定割合は81.4%で県より2.2ポイント高く、全国より4.5ポイント高い割合になっている。日頃の帰りの会などの活動で友達の良い行いや親切にしていたところなどを発表する取り組みの効果が表れていると考えられる。今後も、自己肯定感を高められるよう、引き続き活動を継続するとともに、教師からの評価の言葉も随時入れていきたい。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という設問に対する肯定割合は97.7%で県より3ポイント高く、全国より5.9ポイント高い割合になっている。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」という設問に対する肯定割合は74.5%で県より6.3ポイント高く、10.7ポイントになっている。これらのことから授業中の学習活動において児童は高い関心や意欲を持ちながら、取り組んでいることが分かる。
- 「英語の勉強は好きですか」という設問に対する肯定割合は76.7%で県より6.7ポイント高く、全国より8.4ポイント高い割合になっている。また、「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか」という設問に対する肯定割合は46.5%で県より3.3ポイント高く、全国より2.1ポイント高い割合になっている。これらのことから児童は、授業や授業以外のところでも英語への高い関心や意欲を持ち、日常的に使っていることが分かる。
- 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という設問に対し、3時間以上と回答した割合は39.6%で県より11ポイント高く、全国より10.6ポイント高い割合になっている。さらに、4時間以上と回答した割合は23.3%で県より8.5ポイント高く、全国より7.8ポイント高い割合になっている。これらのことから児童は、ゲームを行っている時間が長いことが分かる。児童に声掛けをしたり、保護者に周知徹底をしていき、改善につなげたい。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対する肯定割合は77.9%で栃木県より4ポイント低く、全国より2.9ポイント高い割合になっている。また、あてはまらないと回答した割合は12.8%で県より5.1ポイント高く、全国より3.9ポイント高い割合になっている。これらのことから児童は、将来の夢や目標を見つけることができていないことが分かる。キャリア教育や総合的な学習の時間等を通して、自分の将来について考えたり、様々な職業や進路があることを学んだりする機会を設け、将来の夢や目標を持てるように支援していきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第 6 学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを深め、多様な方法で効果的に伝える児童の育成	すべての学年で、絵や図、言葉で表現する活動を、継続的かつ計画的に取り入れている。 児童の思考が深まるように、教師の発問や学習活動を工夫している。	国語の「話すこと・聞くこと」の領域における正答率や、観点別に見た「思考・判断・表現」における正答率が、市の平均と比べて上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率が低くなっている。	・資料の読み取り ・複数の資料を関連付けて読み取る活動	資料から分かることを書き出す活動や、読み取った事実から考えられることを考察する活動を、多教科において取り入れる。